



各 位

平成 22 年 11 月 5 日

会 社 名 株式会社イーエムシステムズ
 代 表 者 名 代表取締役社長 國光 浩三
 (コード番号 4820 東証 第二部)
 問 合 せ 先 代表取締役専務 青山 明
 (TEL 06-6397-1888)

第 2 四半期業績予想 (連結・個別) と実績値との差異並びに 通期業績予想 (連結・個別) の修正に関するお知らせ

平成 22 年 6 月 14 日に公表いたしました平成 23 年 3 月期の第 2 四半期連結累計期間 (平成 22 年 4 月 1 日 ~ 平成 22 年 9 月 30 日) の業績予想数値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 6 月 14 日に公表いたしました平成 23 年 3 月期の通期 (平成 22 年 4 月 1 日 ~ 平成 23 年 3 月 31 日) の業績予想数値を下記のとおり修正いたしましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 第 2 四半期連結累計期間 (平成 22 年 4 月 1 日 ~ 平成 22 年 9 月 30 日) 業績予想数値と実績値との差異

連結業績予想数値と実績値との差異

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当り 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	4,071	438	350	875	110.13
今 回 実 績 (B)	4,078	311	186	929	116.88
増 減 額 (B - A)	7	127	164	54	6.75
増 減 率 (%)	0.2 %	-	-	6.1 %	6.1 %
(ご参考) 前 期 (平 成 21 年 9 月 期) 実 績	4,485	626	501	535	67.36

個別業績予想数値と実績値との差異

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当り 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	3,222	476	342	1,264	159.02
今 回 実 績 (B)	3,197	344	183	1,297	163.12
増 減 額 (B - A)	25	132	159	33	4.10
増 減 率 (%)	0.8 %	-	-	2.6 %	2.6 %
(ご参考) 前 期 (平 成 21 年 9 月 期) 実 績	2,789	721	565	571	71.85

2. 通期 (平成 22 年 4 月 1 日 ~ 平成 23 年 3 月 31 日) 業績予想数値の修正

連結業績予想数値の修正

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当り 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	9,046	69	264	1,220	153.48
今 回 修 正 予 想 (B)	8,721	28	259	1,074	135.15
増 減 額 (B - A)	325	41	5	146	18.33
増 減 率 (%)	3.6 %	59.4 %	1.9 %	12.0 %	12.0 %
(ご参考) 前 期 (平 成 22 年 3 月 期) 実 績	9,818	720	493	516	64.96

個別業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り 当期純利益
前回発表予想 (A)	8,158	35	252	1,591	200.18
今回修正予想 (B)	7,797	35	313	1,423	179.07
増減額 (B - A)	361	-	61	168	21.11
増減率 (%)	4.4%	-	24.2%	10.5%	10.5%
(ご参考) 前期(平成22年3月期)実績	6,345	891	656	527	66.31

3. 第2四半期の業績予想数値と実績値との差異、並びに通期の業績予想数値の修正理由

当社の主要販売先であります調剤薬局を取り巻く環境といたしましては、平成21年11月に厚生労働省より発表された「医療施設等設備整備費助成金」制度が平成22年3月で終了し、平成22年4月の診療報酬制度改定に対応するため、システム買い替え需要が前期末に集中した影響に加えて景気の先行き不安が重なり、調剤薬局におけるシステム導入などの設備投資に向けた動きは冷え込んだ状況となっております。そのため、第2四半期連結累計期間の調剤薬局向けシステム事業は、販売台数が当初見通しを若干下回りました。

当期は、ストックビジネスモデルへのビジネスモデル転換後3年目で黒字転換を目指す、非常に重要な事業年度であります。

そのため、収益確保のためのコストコントロールを強力に推し進め、業務効率を高めて増員を抑えつつ、時間外労働の圧縮に努めて人件費増加を抑制し、経費に関する種々の契約条件の見直しや不要不急の支出を見送るなど、販売費及び一般管理費のさらなる削減に努めました。

その結果、第2四半期連結累計期間の営業損失及び経常損失は当初見通しより縮小し、平成22年6月14日に開示いたしました予想数値より大きく改善される見通しです。一方、その他の事業を営む株式会社ラソソテにおいてスポーツジムと保育園における設備投資の回収に想定以上の期間がかかる事などから、一部の固定資産について減損処理を行い、特別損失を計上いたしました。当期純利益につきましては当初見通しを上回りました。

連結業績予想につきましても個別業績予想の修正に伴い、合わせて修正いたします。

第3四半期以降の見通しにつきましては、最終的には見送られたものの薬歴管理料の調剤報酬が事業仕分けの対象になる可能性が一時報じられるなど、調剤薬局を取り巻く環境が今後さらに厳しくなるという不安から、調剤薬局の設備投資に向けた動きはさらに冷え込み、システム販売は当初見通しを下回って推移するものと想定しております。

また、医科システム事業につきましては、グループ会社の株式会社メデファクトで開発中の電子カルテ搭載医事会計システム「Medical Receipty NEXT TYPE 2」が今期中のリリースに向けてフィールドでのテストをすでに開始しておりますが、市場のニーズに応えるべく、さらなる機能強化に向けた開発に取り組んでおります。そのため、「Medical Receipty NEXT TYPE 2」は、通期業績予想には見込まないことといたしました。

一方、販売費及び一般管理費は上記の削減に加え、新大阪ブリックビルの建設資金として借入れておりましたシンジケートローンの一部を繰り上げ返済したことにより、支払利息は当初見通しより減少する見込みであります。

以上の結果、個別業績の通期見通しにつきましては、売上高は当初予想を下回るものの、営業利益及び経常利益は当初予想とほぼ変わらない見込みであります。第2四半期連結累計期間に行いました減損処理の影響により、通期見通しにおきましても当期純利益は当初予想を下回る見込みであります。

なお、通期の連結業績予想につきましては、調剤薬局事業を営んでおります株式会社祥漢堂において、平成22年4月の診療報酬改定に伴う医薬品の価格変更による最終仕入価格が確定していないため、第1四半期決算には反映しておりませんが、平成22年6月14日に開示いたしました業績予想数値では想定仕入価格により業績予想数値を見込んでおります。その影響で営業利益及び経常利益につきましては当初予想を下回る見通しであります。株式会社祥漢堂は現在も妥結に向けた交渉を継続しております。

(注) 本資料における予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。

予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以上